



令和 2 年度

## 業務実績に関する報告書【概要版】

## ✓ 業務の実施状況の内訳

業務の全体的な実施状況は、87 項目のうち、年度計画を上回って実施している（A 評価）が 3 項目（3.4%）、年度計画どおりに実施している（B 評価）が 80 項目（92.0%）、年度計画をやや遅れて実施している（C 評価）が 4 項目（4.6%）という結果であった。

一部取組の遅れた項目があるものの、95%以上の項目が A 評価又は B 評価となっており、年度計画を十分に実施していると認められる。

## 《評価概要》

	項目数	A	B	C	D
➡ 教育研究等の質の向上に関する事項	42	1	37	4	0
➡ 業務運営の改善及び効率化に関する事項	6	0	6	0	0
➡ 財務内容の改善に関する事項	8	0	8	0	0
➡ 自己点検・評価及び情報公開に関する事項	5	0	5	0	0
➡ その他業務運営に関する事項	26	2	24	0	0
合計	87	3	80	4	0

## ✓ 特筆すべき成果（A 評価）

## ① 入試改革の実施（No 6）

・前橋工科大学将来構想に基づき、共通テストの使用科目のうち理科を 2 科目に増やす等の入試改革を実施するとともに、入試科目のバランスが前年度と異なるものについて、配点の見直しを行った。特別選抜においては、新たに基礎学力検査を導入した。

## ② 大学の施設及び設備の改修（室内高温対策）（No80）

・1号館 4、5 階共有部の高温対策のため、ガラス面に遮熱フィルムを設置し、効果検証を行ったところ、廊下の室温が最大 57 度から 35 度まで下がり、室温上昇を大きく抑えることができた。3号館 2 階及び 5号館 4 階においても、同様に遮熱フィルムを設置した。

## ③ 大学の施設及び設備の改修（教室整備等）（No81）

・大教室 1 室について、ホワイトボードの 2 段化を行ったほか、学生の卒業研究の一環で、5号館 4 階の教室に遮光フィルムを設置し、その効果について比較検証を行い、研究を通じて学修環境の向上を図ることができた。また、教育ニーズや学生からのニーズを把握し、多様な形態による教育の実施及び学生の学修支援の充実を目的とした教育環境を整備するため、建築学科堤研究室が、教室整備計画策定のための調査を行い、その内容について報告書を作成した。

## ✓ 取組の遅れた項目（C 評価）

## ④ 学部から博士前期課程の教育的連携（No10）

・令和 4 年度の学科再編に向け、学部のカリキュラム編成から着手しており、大学院のカリキュラム再編には至れなかった。なお、学部 4 年次における大学院科目の早期履修制度について、令和 3 年度後期からの実施に向け検討を進めた。

## ⑤ 地域貢献、国際交流の実施（No29・34・35）

・地元地区（上川淵、下川淵等）との連携による「おとなの科学教室」の開催や共同研究・教育上の国際交流の充実のため、海外の大学への教員・学生の派遣・受入れを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。海外語学研修に参加する学生に対し、渡航費補助等の経済的支援を行う予定であったが、国による出国制限などにより未実施となった。

## ✓ 主な評価指標の達成状況

指 標	R1 実績	達成目標	R2 実績
学部の入学定員充足率	109.7%	100%以上	108.6%
博士前期課程入学定員充足率	70.8%	100%以上	137.5%
博士学位取得者数*	1 人	15 人以上*	4 人
地域貢献事業への参加学生数	254 人	200 人以上	35 人
外部資金の獲得額	87,647 千円	100,000千円以上	85,723 千円
学部学生の就職率	100%	100%	95.7%
博士前期課程学生の就職率	100%	100%	100%
学部学生の修業年限内退学率	7.8%	5.0%以下	8.2%

※「博士学位取得者数」の達成目標は中期目標終了年度の令和 6 年度までの累計延べ人数